

Epilogue

「A県S山地にて林業を営むT村さんへのインタビュー」

ええ、あの辺りは普段私も出向かないんですよ。

現場はもっと奥のほうですし、わざわざ重機を入れて作業するような場所でもないの。

発見した時は、たまたま通ったというだけで「道開け」をするルートの候補をいくつか探していた時でした。

はい、正直、驚きましたし、なんでこんなところに、というのはありました。遭難するという場所でもないですし。

ただ衣服がきれいに畳まれていたことや、荷物もきちんと並べてあったので、普通ではない、といいますか妙だなとは感じました。印象的だったのはパソコン、ですね。仕事がいつでもできるように、という風にすぐ傍に置いてありました。

もし遭難や事故なら、そんな余裕があると思えないですし、わざわざそんなことするのか、と。いえ、ご本人がしたのかも分からないのですが、そうでないなら誰かがいた、となりますが……。

もしかしたら「彼」は、自分からそういう場所を探して、そのつもりで……ということも考えたんですが、そういう痕跡とか道具みたいなものもないです。遺書のようなものもなかったみたいです。

「ご本人」は、亡くなってから時間が経っているので損傷とかも激しくて、表情なんかもよくわからない状態だったわけですけど、私としては、第一印象としては「眠っている」ように感じました。

何故かというとな難しいのですが、何かそこで事件があった、というよりは、ただ休んでいるだけのように感じました。

すみません……うまく説明できなくて、変な話ですよね。

私としては事件も事故もしっくりきていないので、ありのまま覚えていることをお伝えするとそのようになります。はい、争った形跡とか、場が乱れていたとかはないです。

あの場所のことですか。

そうですね……あまり人が入るような場所でもないの、森のままというか、動物なんかも多くて。うさぎとか鹿とかいると思います。

いえ、人家とかキャンプ場とかそういうものはないです。あの辺りに人が住んでいたとかは多分江戸時代とか、かなり昔にさかのぼらないといけないと思いますよ。

そういうえば、ペンションだったかカフェだったかと思いますが、閉業してから、10年以上経っていたかと記憶しています。一応、森の外の道路までは車で来れますけど、森に入らないとどおり着けないですから、商売としては厳しかったんじゃないでしょうか。

建物は、私が発見した現場からすぐですけど、多分廃墟みたいな感じだと思います。又聞きですが、オーナーの方もいつの間にかいなくなっていて、どうにもできないまま放置されてしまっているとか。誰かが遊びに来るなんて、ありえないです。

今ですか？いえ、結局あの辺りは作業道にはしませんでした。

今回のことがあったから、というよりは、美しい場所なんですよ単純に。

私たち林業に携わる人間は、森や山、木々とともに生きている、という思いが強いんです。敢えて、美しい場所を人間の手で崩すよりは、守りたいと思いますから。

だから何となく「彼」の気持ちも解るんです。

あの森で一休みしたくなるんだろかなとか、何かあの場所に居たくなたんじゃなかなとか。そんな思いつめたり、不幸なことではないんじゃないかと。

それにあの美しい森も、もしかしたら、たまには人が来たら嬉しいんじゃないのかなって。

森や山に呼ばれることって、あるんですよ。

山奥で一人で歩いているときに、何となく「こっちに行きたいな」と思って進んでみると、綺麗な花畑が広がっていたり、美しい水のせせらぎに出会ったり、鹿やリスがじっとこちらを見つめて、逃げたりもしないで、一緒にいてくれたり…。

何となく、森や山や自然たちが自分のことを歓迎してくれている。

……私も、森の中を歩いている時に、ふと、そんな気持ちになることってありますから。

はい、申し訳ありません。あまり役に立つお話ができなくて。

何かありましたら、またご連絡ください。

《202X年 X月 A県地方新聞 インタビュー記録レコーダー より》